

(1) 出題方針

世界史では配点各 50 点の大問 3 題で、時間は 75 分です。記述問題と記号選択問題が混合して出題されます。記述問題では、人名、地名、歴史学上の概念などを正確に記述することが求められます。記号選択問題では、大きな歴史の流れ、異なる地域の相互関係などを正確に把握していることが必要になります。

出題範囲は世界史の教科書の記述内に留めるように注意を払っています。その理由は、受験生が学校での授業や学習を軽視して受験の準備にのみ埋没してほしくないからです。試験で問うのは、いずれも教科書に記されている基礎的な内容です。専門的な知識は大学に入学してから学べば良いので、高等学校では基本的な歴史への見方を養ってください。

歴史への見方について、以下の点にも注意を払っていただきたいと思います。

一つ目は、長期的な歴史の流れを理解することです。世界史の問題は、古代から近代・現代までいくつもの時代にまたがる通史的な問題が大半を占めます。そして、各大問の中でも、ある特定地域の歴史の流れを理解していることが求められます。たとえば、2 月 6 日の〔Ⅱ〕は、税制度、流通網などを交えて、唐代から明代に至る中国経済の変化を扱っています。2 月 10 日の〔Ⅰ〕は、古代から近世に至るまでのブリテン島の歴史を、ヨーロッパ大陸の諸勢力との関係を軸に扱っています。

二つ目は、同じ時代の中での地域間の相互関係や比較することです。いわゆる「大航海時代」以降は、世界が一体化しますが、それ以前にも地域を越えた人の交流はありました。2 月 7 日の〔Ⅱ〕は、中国とインドのあいだに位置している東南アジアを軸にして、前近代において交易を取り上げています。2 月 9 日の〔Ⅱ〕では、唐代の中国と西域との交流を扱っています。これらのように真正面から交流を扱う問題だけではなく、2 月 6 日の〔Ⅲ〕のように、近代ドイツを主領域とする大問で第一次世界大戦とその後の展開に触れたうえで、隣国ポーランドでの歴史の展開について問うということもあります。

三つ目には、歴史の理解を深めるためには、政治の動きだけではなく、文化にも注意を払う必要があるということです。2 月 6 日の〔Ⅰ〕では、古代ギリシアで生まれた「知」が、東方へと伝わって独自の発展をみて、中世にはシチリアを介してヨーロッパに受容されていく過程を問うています。2 月 7 日の〔Ⅰ〕は、中世から近世のヨーロッパにおける文芸、思想、美術などを取り上げています。

四つ目には、中国や欧米の大国だけではなく、これまでの歴史のなかで周縁的に扱われていた地域にも目を向けることです。2 月 5 日の〔Ⅱ〕は、朝鮮半島を中心としています。2 月 8 日の〔Ⅱ〕は、イスラーム世界における 3 つのトピックを取り上げ、トピックごとに時代・地域の特性を問うとともに、この 3 つのトピックを年代順に並べる問題も出ていて、総合的にイスラーム史を理解することを求めています。2 月 9 日の〔Ⅲ〕では、近世から近代にかけてのラテンアメリカの歴史を扱っています。

五つ目には、現代との関わりです。歴史は過ぎ去ってしまった過去ではありません。2 月 5 日の〔Ⅲ〕、2 月 7 日の〔Ⅲ〕、2 月 10 日の〔Ⅲ〕では、イギリスのインド植民地、フランスのインドシナ、アルジェリア植民地の問題が取り上げられています。こうしたテーマは今日におけるインドとパキスタンの対立、マグレブとヨーロッパの関係を理解するうえでも重要なことです。

(2) 解答状況および解説

受験者と合格者の平均得点率は以下のとおりです。

日程	2月5日	2月6日	2月7日	2月8日	2月9日	2月10日
受験者平均得点率	68.9%	70.9%	73.8%	76.0%	73.7%	74.5%
合格者平均得点率	79.1%	80.8%	83.9%	86.9%	83.2%	84.5%

全体として高レベルの正解率であり、本学の受験生が高校での世界史学習にしっかりと取り組んでいる様子が見えがえします。しかし個別の問題を見ていくと、受験生が抱えている問題点が見えてきます。

この表からも分かるように、合格者平均点は受験者平均点よりも約10%程度点数が高くなっています。もっとも差が出たのは、複数の知識を活用しないと正解を導き出すことができない問題です。2月5日を例に取ると、〔I〕設問17では、いわゆる叙任権闘争に関する5つの短文の中から誤っているものを一つ選択することになっています。それぞれの短文には叙任権闘争に関わる用語がちりばめられていますが、この出来事に関わった人物名や象徴的な事件名を覚えるだけではなく、叙任権闘争の展開を正しく理解しておく必要があります。同様の問題は同日の〔II〕設問3などにもあります。同日の〔III〕設問3では、「1880年代半ばから始まった」「イギリス統治下のインド」での、イギリスの政策およびインド人の政治運動に関する出来事を年代順に配列する問題が出されていて、歴史の流れを正確に理解することが求められます。同じ〔III〕設問4は、本学の世界史入試でしばしば出される、二つの短文の正誤組合せを問う問題です。ここでは、知識の正確さが求められます。いずれも、歴史の流れ、因果関係などを正確に理解しておく必要があり、合格者と不合格者の差が大きくなっています。

さらに、得点率が低かった2月7日の〔I〕はヨーロッパの中近世における文化史ですが、とくに美術に関する問題などで、得点率が低くなりました。2月8日の〔III〕も思想や音楽に関する設問で、得点率が低くなっています。上でも述べたことですが、文化史も含めて、しっかり勉強してください。

(3) 受験生へのメッセージ

高校での世界史の授業と教科書をきっちりと学習することが重要です。教科書の内容を把握し、その知識をうまく運用することが必要です。本学の試験では、大問ごとに主たる対象領域が設定されています。しかし、問題を細かく見てみると、その領域の知識だけでは解くことが不可能な設問があります。同時代に他の地域で何が起こっていたのか、あるいは、どのような関係・交流があったのかを併せて理解しておく必要があります。

さらに、知識が曖昧であると、思わぬところに落とし穴があります。年代順に歴史的な事象を並べる問題、複数の短文の正誤を問う問題などでは、正確な知識が求められます。記述式問題では、必要な漢字を書くことができないと正解にはなりません。「漢字テスト」ではありませんが、用語を正確な漢字で書くことが求められます。

また、上手な文字である必要はありませんが、わかりやすい文字で書くことも必要です。記号選択の問題での数字、記述問題での数字やカタカナなど、区別が付かない答案が少なからずあります。昨年も指摘しましたが、「シ」と「ツ」と「ミ」、「ア」と「マ」と数字の「3」、「ソ」と「ン」と「ニ」、「カ」と「ク」と「ワ」、「ユ」と「コ」などがしっかりと書き分けられていないために、誤答になってしまうこともあり得ます。日頃から、丁寧に文字を書くことを心がけてください。

リード文や問題文をよく読んでいない事例もあります。設問ごとに記入すべき解答欄を指示していますが、それにも関わらず、解答欄が分からなくなってしまうという受験生が少なからずありました。本学では記号選択、記述など、いろいろなパターンで出題されますので、設問順に解答欄が並んでいるとは限りません。落ち着いて試験を受けてください。

◆世界史◆ 出題の意図

102	出題の意図
[Ⅰ]	フランク王国が分裂し、その中から今日のフランス、ドイツ、イタリアにあたる国々が形成され、ヨーロッパ中世社会が成立してゆく過程および、これに関連する幅広い歴史事象についての知識を問う。
[Ⅱ]	古代から近世にかけての朝鮮半島の歴史と、これに関連する国際関係や、朝鮮半島への中国文化の影響などに関する知識を問う。
[Ⅲ]	イギリスによるインド支配を中心に、帝国主義時代の列強による植民地獲得競争と、これに対抗する諸民族の抵抗運動に関する知識を問う。
103	出題の意図
[Ⅰ]	古代ギリシアで生まれた「知」が、東方へと伝わって独自の発展をみて、中世にはシチリアを介してヨーロッパに受容されていく過程および、これと関連してヨーロッパとアジアの中世史に関する知識を問う。
[Ⅱ]	税制度、流通網などを交えて、唐代から明代に至る中国経済の展開を、地理的な側面も含めて理解しているかを問う。
[Ⅲ]	帝国の成立、帝国主義的対外膨張主義、第一次世界大戦を経て十一月革命による帝政の崩壊までのドイツ近代史に関する知識を問う。
104	出題の意図
[Ⅰ]	中世末期から近世初頭のヨーロッパ社会の混乱の中から生まれるルネサンス文化および宗教改革と関連付けながら、思想、芸術、文芸、科学技術など幅広い文化について問う。
[Ⅱ]	前近代において東南アジアが諸文明をつなぐ重要な役割を持ちつつ、独自の文化圏としての地位を築いていたこと理解しているかを問う。
[Ⅲ]	インドなどの海外植民地支配の問題を関連付けながら、ヴィクトリア時代のイギリスにおける労働運動や社会主義運動に関する知識を問う。
105	出題の意図
[Ⅰ]	ローマ帝国、および東西分裂後の西ローマ帝国の滅亡とその後の西ヨーロッパ社会、東ローマ帝国の独自の発展に関する知識を問う。
[Ⅱ]	ウマイヤ朝、ティムール朝、ワッハーブ朝という前近代のイスラーム世界における政治、文化、交易などを総合的に理解しているかを問う。
[Ⅲ]	近世から近代に至るハプスブルク帝国内の政治と国際関係に加えて、近世から近代のヨーロッパ文化についての知識を問う。
106	出題の意図
[Ⅰ]	修道院などで生まれたキリスト教文化と、十字軍遠征や交易を通じてもたらされたアラビア文化とが発展した中世ヨーロッパの文化について問う。
[Ⅱ]	北朝の軍事集団の系譜に連なる唐王朝の国内統治と、西域のさまざまな遊牧民族との対立・交流の歴史について問う。
[Ⅲ]	19世紀にヨーロッパの宗主国から独立したラテンアメリカ諸国の歴史を、メキシコを中心に問う。併せて、新大陸において影響力を強めてゆくアメリカ合衆国についても問う。

107	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代から近世に至るまでのブリテン島の歴史を、ヨーロッパ大陸の諸勢力との関係を中心に問う。
〔Ⅱ〕	イギリスをはじめとする列強の侵略によって社会が混乱する清朝期中国の政治と社会に関する知識を問う。
〔Ⅲ〕	第一次世界大戦、大恐慌、隣国ドイツでのナチズム政権樹立と第二次世界大戦、インドシナなどの植民地独立運動など、さまざまな問題に直面したフランスの対応に関する知識を問う。